

未来医療研究人材養成拠点形成事業
選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント
[テーマB：リサーチ・マインドを持った総合診療医の養成]

		整理番号	B - 8
申請担当大学名 (連携大学名)	大阪大学		
事業名	地域に生き世界に伸びる総合診療医養成事業 ～超高齢社会を切り拓くリーダー型高度医療人養成～		
事業責任者	医学部附属病院 卒後教育開発センター長 楽木 宏実		
事業の概要			
<p>大阪大学の「地域に生き世界に伸びる」という理念を、超高齢社会の医療システム充実や世界に発信できる社会システム構築に反映できる研究人材を養成する。本事業の柱は、 地域の高齢者医療においてリーダーシップを発揮できる総合診療医の養成、 世界に発信すべき社会システム構築に貢献できるリサーチマインドを持った人材の養成、の2点である。</p> <p>大阪大学に課された大きな地域的課題である千里ニュータウンの再生に、リーダー型総合診療医養成の観点から貢献し、ニュータウン再生プランの輸出産業化に向けて世界に情報発信する。臓器別の高齢者に対する高度医療の一元的教育や、研究と連携した実習教育、医学以外の分野との連携による教育などによりリサーチマインドを涵養し、海外研修も含め世界への情報発信力強化を図る。多面的なプログラムは、卒前・卒後教育の様々な場面で参加可能で、相互補完を持たせることにより多様な人材を育成する。</p>			
推進委員会からの主なコメント			
		：優れた点等、	：改善を要する点等
<p>総合大学の長を生かした、診療および研究における学部横断的な取組は非常に期待できる。 達成目標と評価指標が具体的に述べられている。 教育プログラム・コースがキャリアの段階ごとにされている。 卒前教育が充実している。 千里ニュータウンという具体的な地域が設定されている。 高齢化が著しい近隣のコホートを活用できる点、臨床医工学と在宅医療の融合を図っている点は優れている。 阪大Cコースは、講義がプライマリ・ケアの観点から実施されるか不明である。 阪大Cコースの講義がやや総花的と思われることから、再考が必要ではないか。 阪大Dコースは、総合診療のリサーチ教育としてマクマスター大学EBCPワークショップだけでは物足りないのではないか。</p>			
留意事項			
<p>阪大Bコースは、医学生、大学院生、後期研修医の履修科目が同一になっているが、学部、大学院、後期研修それぞれのレベルに応じた教育内容・評価とすること。</p>			